

たった1冊の本を3回も 書き直した話

藤原 惟 (@skyy_writing /ソラソルファ)

2019年9月27日

Developers Summit 2019 KANSAI



自己紹介：藤原惟（ふじわらゆい）

- 著書『Markdownライティング入門』（インプレスR&D）
- Twitter: @skyy_writing
- エンジニア：出版系システムの開発
- 神戸電子専門学校 非常勤講師
- 日本Pandocユーザ会
（ユーザーズガイド日本語版 改訂作業中）



【1回目】 2017/12
ブログ (note)
Advent Calendar



つくる、つながる、とどける。

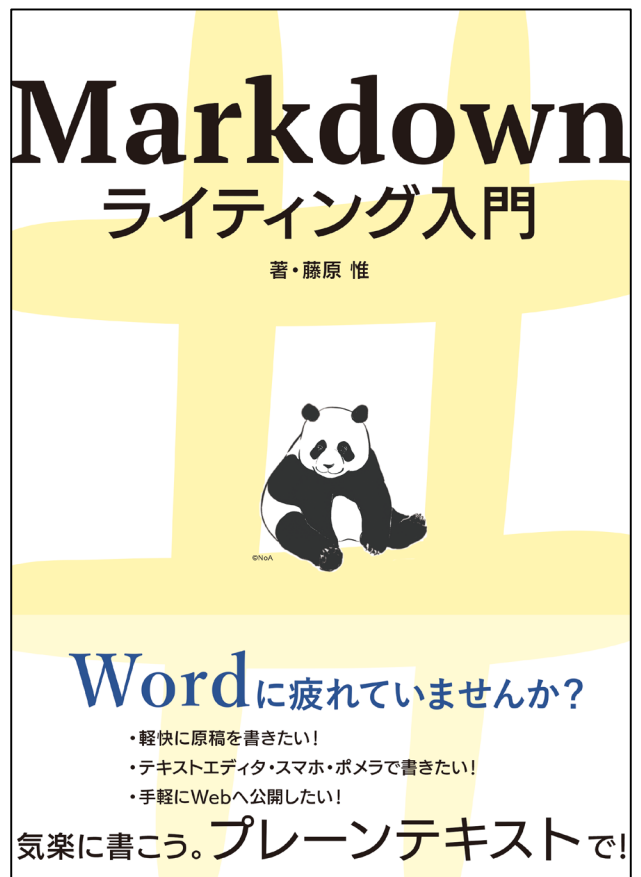
ADVENTAR

文系のためのMarkdown入門 (ひとり)

作成者: sky_y

登録状況: 14/25人

【2回目】 2018/4
同人誌
技術書典4



【3回目】 2018/12
商業誌
インプレスR&D



『Markdownライティング入門』とは

- 表向け：Markdownをまったく知らない人向けの最初の1冊
 - 当初は『文系のためのMarkdown入門』だった
- ガチ勢向け：Markdown方言の整理、歴史的経緯と思想
 - 第8章「Markdownとは何か」……魂は最終章に込められている

はじめに

本書は、ライティング（文章を書くこと）をテーマとしています。
特に、PC やスマートフォンで**気楽に**文章を書くための
提案をしていきます。

たとえば……

- ストレスを減らして、執筆に集中したい
- PC が古くて、できるだけ軽いアプリで執筆したい
- 思いついたときに、手元のスマホなどでさっとメモ書きしたい
- そのメモ書きをあとで原稿にまとめたい
- いろいろなアプリやWeb サービスなどで、原稿を使い回したい

本書では、気楽に文章を書く記法（記号を用いた表記の方法）
としてMarkdown（マークダウン）を紹介します。

実は、今お読みの文章は、Markdown で書かれた原稿そのままです。
いったん、「はじめに」のページ全体を見渡してみてください。

第1章 プレーンテキストとMarkdown

1.1 プレーンテキストの勧め

1.2 Markdownはプレーンテキストで文章を書くための記法

1.3 Markdownアプリの例

1.4 本書におけるMarkdownの定義

第2章 ミニマムMarkdown

プレーンテキストで書く段落は空行で区切る／ファイルの拡張子は「.md」

第3章 Markdownで書いてみよう

3.1 Markdown専用エディタをインストールしよう

3.2 ミニマムMarkdownで書いてみよう

第4章 きほんのMarkdown

太字／見出し／リンク／画像／引用／番号なしリスト／番号付きリスト／水平線／コード／コードブロック

第5章 Markdownライティングを实践しよう

5.1 道具：Typora（Markdown専用エディタ）

5.2 考え方：2段階執筆（下書き段階と清書段階）

5.3 はてなブログでMarkdownライティング

5.4 WordPressでMarkdownライティング

第6章 Markdownをさらに活用する

6.1 さまざまなツールで書くMarkdown

6.2 Markdown文書からリッチテキストへ

6.3 MarkdownとHTML

6.4 Markdownを活用するための小技

第7章 GitHub Flavored Markdown（GFM）

表／タスクリスト／打ち消し線／拡張自動リンク／絵文字／シンタックスハイライト

注意：GitHub Flavored Markdown Specにない記法

第8章 Markdownとは何か？

8.1 Markdownの定義

8.2 特筆すべきMarkdown方言の一覧

8.3 MarkdownとCommonMarkの思想と歴史

0回目：企画と構想

- 当初のモチベーション

- Markdownという便利なものをWeb業界だけで留めるのはもったいない

- 仮説

- いわゆる文系の人なら、Markdownの恩恵を受けられるのではないかな？

- メッセージ

- Markdownで文章を気楽に書いてほしい
- Markdownでブログを書くことで救われた→書く習慣で、人生をより良く

【1回目】 2017/12
ブログ (note)
Advent Calendar



つくる、つながる、とどける。

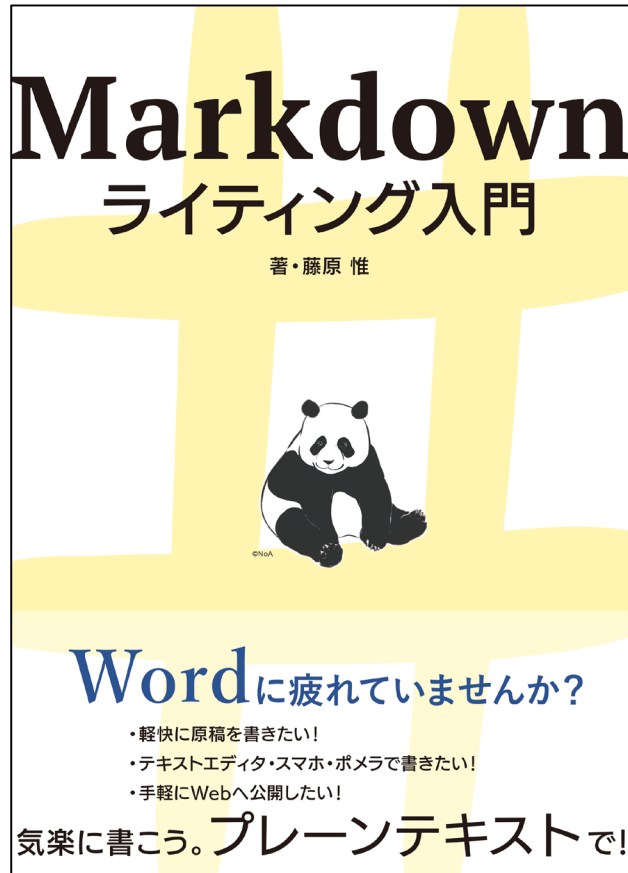


文系のためのMarkdown入門 (ひとり)

作成者: sky_y

登録状況: 14/25人

【2回目】 2018/4
同人誌
技術書典4

















【3回目】 2018/12
商業誌
インプレスR&D



文系のためのMarkdown入門（ひとり） Advent Calendar 2017

作成者：  sky_y

登録状況：14/25人

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1  sky_y	2  sky_y
3  sky_y	4  sky_y	5  sky_y	6  sky_y	7 登録	8 登録	9 登録
10 登録	11 登録	12  sky_y	13 登録	14 登録	15  sky_y	16  sky_y
17  sky_y	18  sky_y	19  sky_y	20 登録	21  sky_y	22 登録	23 登録
24 登録	25  sky_y					

1回目：ブログ (note) / Advent Calendar

- 無謀にも「ひとりAdvent Calendar」に挑戦
 - 7日目あたりから**メンタルを病む**……戦略的な休憩が大事
- 理解が浅いため、**回避不能の批判・質疑**をTwitterで受ける
 - Q「和文における段落とは何か？」……日本語学上でも定説がないっぽい
 - ノイローゼになるくらい「和文における段落とは何か？」を調べた

1回目：ブログ (note) / Advent Calendar

- **15日分+a のnoteマガジンになった → 同人誌版の底本に！**
 - 経験則：ブログ記事15日分書けば、立派な本1冊が作れる
 - 注：1記事あたり3000～6000文字
- note有料マガジン（投げ銭形式：基本無料）
 - 投げ銭するなら1記事100円
 - **わざわざ投げ銭してくれる人がいる → めっちゃ嬉しい！**

【1回目】 2017/12
ブログ (note)
Advent Calendar



つくる、つながる、とどける。

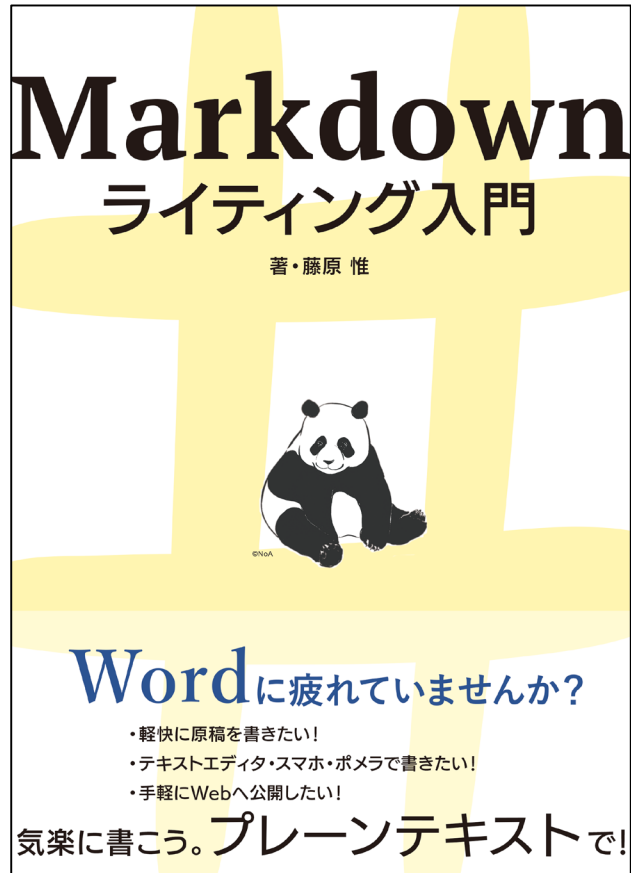


文系のためのMarkdown入門（ひとり）

作成者：👤 sky_y

登録状況：14/25人

【2回目】 2018/4
同人誌
技術書典4



【3回目】 2018/12
商業誌
インプレスR&D



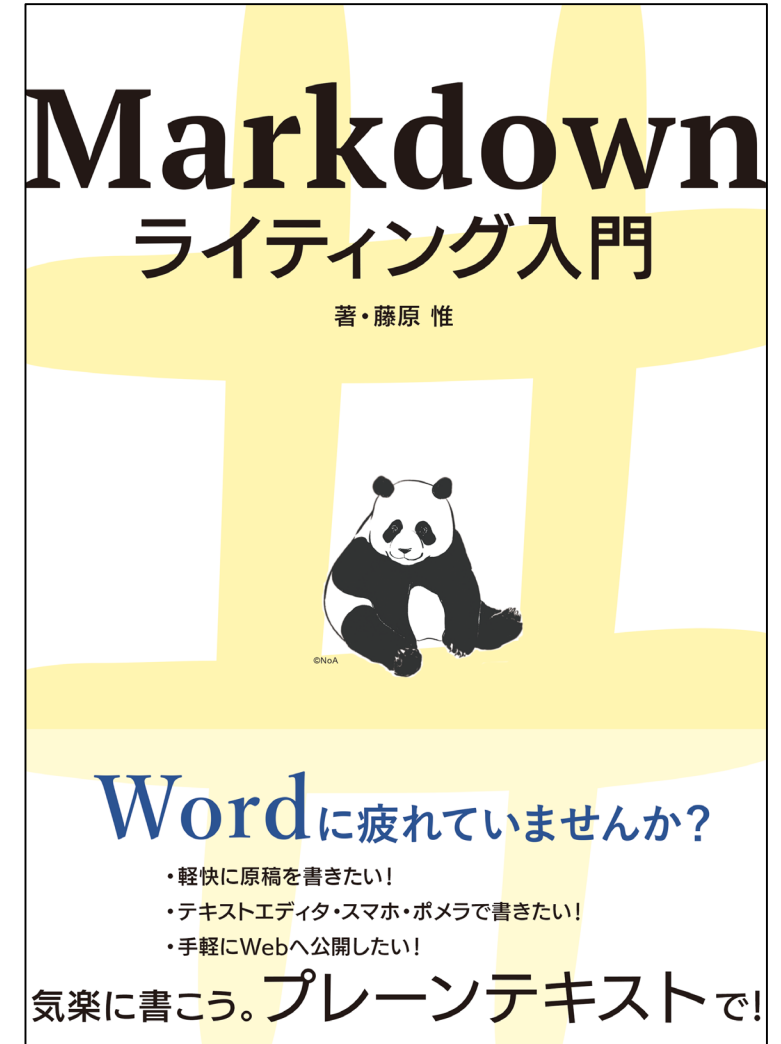
2回目：同人誌版（技術書典4）

- 生まれて初めてのサークル出展……締切に向かって勢いで執筆
- レビューを依頼
 - Twitter / Facebookで募集 → 数名集まった
 - 書き上がった章から順次、Dropbox上にPDFを置く
 - **Dropboxのコメント機能で書いてもらおう（便利）**
 - お礼：謝辞＋入稿版のPDF



実は同人誌版にしかないもの

- 綺麗な表紙（手触りの良い紙）
- エピソード（ちょっとした物語 黒歴史）
 - 読みやすいと思って良かれと書いたが……
 - レビューで「文系をなめている」と言われた
- びっしり付いている索引
 - LaTeXのパワー、同人誌だからできる自由
 - 商業誌版：組版システムの都合で付けられず
 - 電子書籍では「ページ数」の概念が違うため



【1回目】 2017/12
ブログ (note)
Advent Calendar



つくる、つながる、とどける。

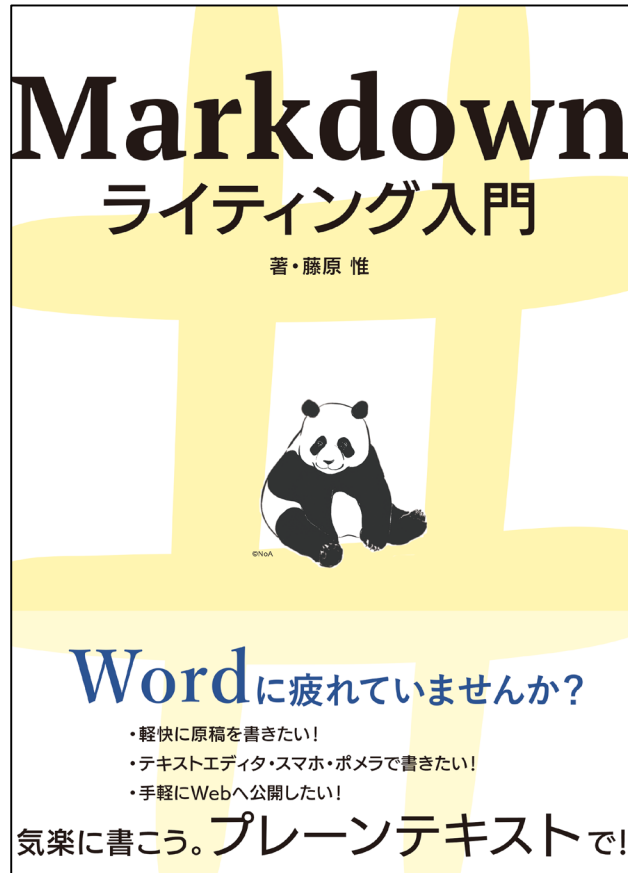
 ADVENTAR

文系のためのMarkdown入門 (ひとり)

作成者:  sky_y

登録状況: 14/25人

【2回目】 2018/4
同人誌
技術書典4



【3回目】 2018/12
商業誌
インプレスR&D



3回目：商業誌版（インプレスR&D）

- 某Y編集長からお声がかかった
- 1～2週間ぐらい悩み、出版契約書を熟読してから契約した
 - （契約書のひな型が執筆開始前に出てくる出版社はホワイトです）
- しかし技術書典の熱が覚め、執筆が進まず……
 - 6月は進捗がまるまる無だった
 - Y編集長と顔を合わせ、10月に最終締切を言い渡されてやっと火が付いた

商業化に向けて特に意識したこと

- 削る、直す
 - 無駄な言葉、無駄な節を削る
 - 内容面の誤り、読みにくい文言に赤を入れる
- 章立てを整理して、見通しを良くする
- その上で、足りない部分や詳しくすべき部分を追加する

ここすき (表紙 by Mitraさん)



編集「これで校了としてよいですか」

- 3回の執筆を通して、最もプレッシャーを感じた言葉
 - あまりに重かったので、何もせず無駄に丸1日悩んでしまった
- 藤原「……はい、校了とします」
 - 宣言したあとも「これで良かったのか？」と自問自答

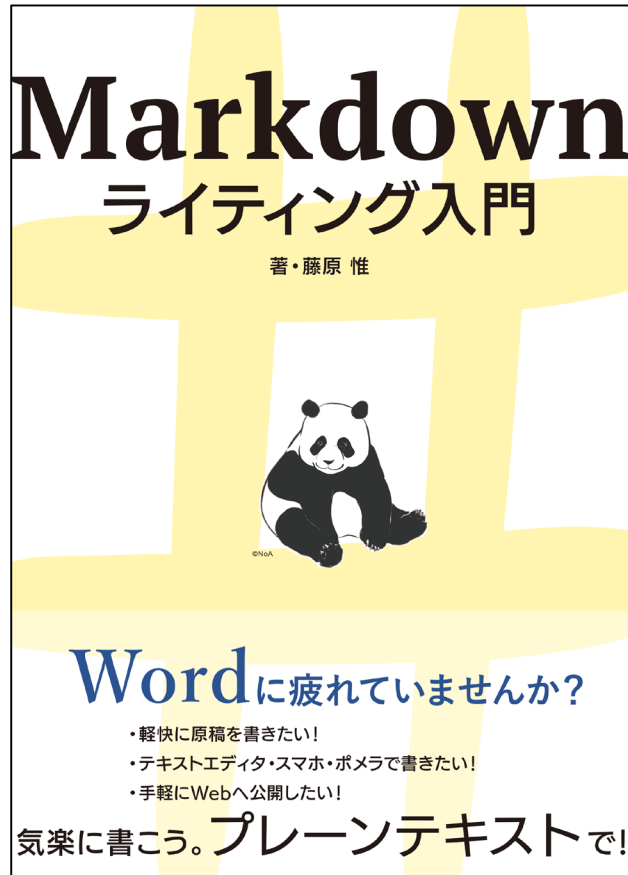
【1回目】 2017/12
ブログ (note)
Advent Calendar



つくる、つながる、とどける。



【2回目】 2018/4
同人誌
技術書典4



【3回目】 2018/12
商業誌
インプレスR&D



まとめ：同じ本を3回書いてみた結果

- どれだけ丁寧に書いても、自力では永遠に完成しない
- 締切が原稿を fix してくれる
 - 「出ない神本より、出るクソ本」
- 健全な評価と批判に晒されることで、本のクオリティが上がる
 - 同人誌はちょうどよい「実験台」
- 一番楽だったのは商業誌、一番楽しかったのは同人誌